

海外安全対策情報（2024年第2四半期）

在ギリシャ日本国大使館

1 社会・治安情勢

新型コロナウイルス感染対策として、ギリシャ政府は一部の機関、場所を除いてマスクの着用を不要し、国内制限措置についても更新の度に日付のみを延長するなど、特段政策に大きな変化は見受けられないが、6月ころから新型コロナウイルス罹患者数の増加傾向が見られる。

- (1) コロナ以前と同様の観光客増加に伴い、アテネ市内での窃盗事件が多発しているため、一層の注意を向けられたい。
- (2) アテネでは各種労働組合等によるデモや抗議集会が連日のように行われている。大半は平和的に行われるが、現在ギリシャ警察の行動に対する抗議が頻発し、一部が暴徒化することもあり、一定の注意が必要。
- (3) アナキストグループの活動が活発であり、様々な口実、特に国際情勢に合わせて政府関連施設、企業、各国大使館等に対する攻撃を行っており、イスラエル・パレスチナ情勢に伴い、関係公館等に対する抗議活動が活発に行われている。今後、何らかの理由で日本関連施設が標的となる可能性も排除できない。
- (4) フェリーや地下鉄などの公共交通機関が全面的に運休する大規模なストライキが、度々行われるほか、上記（3）に伴う交通規制も行われている。
- (5) サッカーやバスケットボールなどのスポーツイベントも活発に行われているが、一部過激サポーター同士の衝突も見受けられることから、観戦等を行う場合は注意されたい。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

新型コロナ後、当地への邦人旅客数の増加傾向がみられ、アテネ市内で邦人の盗難被害が多発（特に5月）しており、特に電車内、観光施設、レストランでの被害が集中している。当地での窃盗事案は、主に腕利きの犯罪集団による犯行であり、在留邦人や旅慣れた旅行者でさえ多くの被害に遭っている。この傾向は例年の被害状況から第3四半期中（7月～9月）も継続すると予想される。

【代表的な邦人被害事案の手口】

ア 邦人被害では、アテネの地下鉄や駅におけるスリが最も多く、知らぬ間にリュックサックや鞆を開けられ財布等を盗まれている。被害防止のため、リュックサック

等を身体の前でしっかり保持することが重要である。

イ アテネ市内では、観光客を狙った集団の物売りに話しかけられ、荷物から目を離れた隙に鞆などを盗まれる被害が発生している。

3 テロ・爆弾事件発生状況

第2四半期において、当地でのテロ行為は把握していないが、今後当地でのテロ発生の可能性はゼロではない。また、アナキスト等による閉店後の店舗や雑居ビルを狙った爆発物事案なども発生している。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人等に対する誘拐事件及び脅迫事件は把握していない。

5 日本企業等の安全に関する諸問題

具体的な問題は把握していないが、当地では、環境問題や労働者の待遇、解雇や作業事故などを口実として、アナキストが企業を攻撃するケースが多く発生しており、注意を要する。